

森地区(玖珠町) ～昔と今を未来へ～

計画期間	平成15年度 ～ 24年度
面積	14.3 ha
全体事業費	725,472 千円
市人口	17,665人 (うち地区内334人)

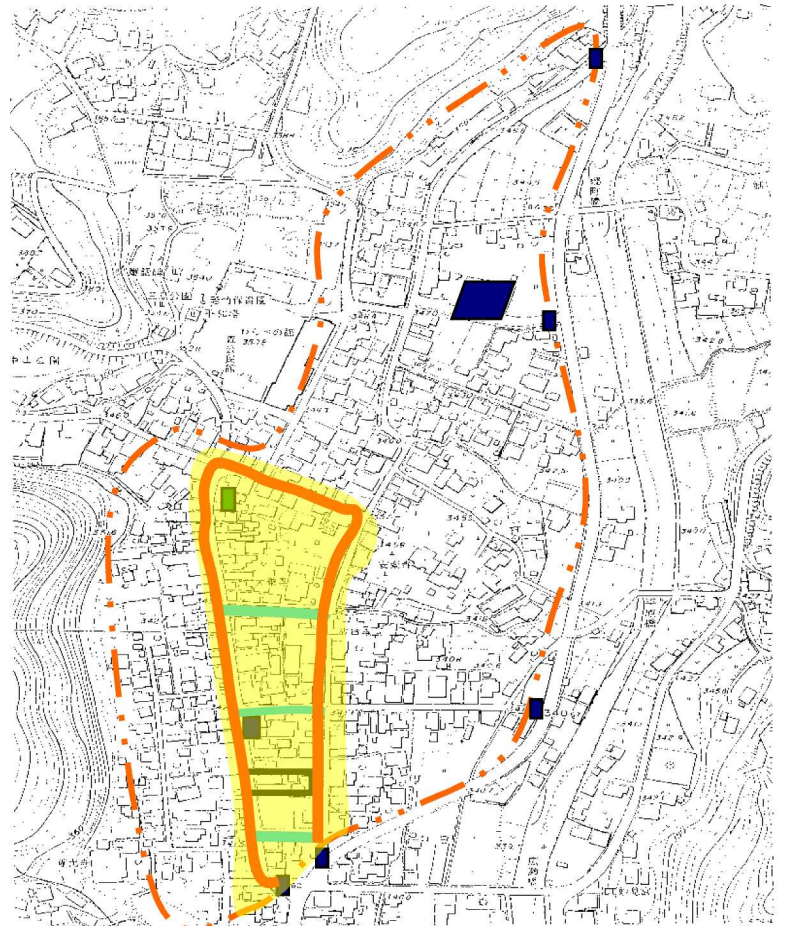
まちづくりの目標

地域の貴重な財産である歴史ある町並みを活かして住み良いまちづくりを進めるほか、観光客の流入等により「にぎわい」をとりもどし、地域の商業振興、雇用機会の増大、定住促進を進めていくことがこの事業の目標です。

主な事業内容と事業費・事業期間

- 道路美装化(A=2,400㎡) 280,429千円 平成21年度～平成24年度
- 小公園・緑地等(A=558㎡) 41,586千円 平成16年度～平成18年度
- 通路整備(A=489㎡) 7,103千円 平成19年度～平成19年度
- 水路整備(L=215m) 14,422千円 平成19年度～平成19年度
- 案内板等(一式) 60,810千円 平成24年度～平成24年度
- 集会所等(一式) 85,200千円 平成24年度～平成24年度
- 防火水槽(N=1基) 9,650千円 平成24年度～平成24年度
- 修景(N=80箇所) 217,272千円 平成15年度～平成24年度

大分県 玖珠郡 玖珠町



街なみ環境整備促進区域				
街なみ環境整備事業区域				
補助項目	番号	補助対象施設等	事業量	事業期間
協議会活動助成	1	協議会活動助成事業		H13～15
事業計画策定	2	計画策定		H13～14
その他大臣	3	通路整備	489㎡	H19
地区施設	4	小公園・緑地等	558㎡	H16～18
防災施設	5	防火水槽	40㎡	H24
生活環境施設	6	集会所等	1式	H24
その他大臣	7	水路整備	215m	H21
その他大臣	8	案内板等	24箇所	H24
その他大臣	9	道路美装化	2400㎡	H21～24
修景施設	10	修景施設整備	80棟	H15～24

地区の歴史・風土

近世初期に大友氏が除国となり、毛利高政がこの地を治めました。この時高政は角牟礼城の改修にあたり、穴太積みと呼ばれる工法で石垣を築きました。1601年9月、1万4千石で来島氏が森に入部し、角埋山の南側・森川右岸に城下町の建設を開始しました。城下町は陣屋を取り囲むように武家屋敷があり、南側には町人町が伸びていきました。8代通嘉の時に陣屋横にある丘陵を利用した神社の大造営工事を行いました。このときに末廣神社本殿及び鞘堂・栖鳳楼などの建造物、庭園が造られました。明治時代、森は玖珠郡の政治・金融・商業の中心地として栄え、当時は造り酒屋・呉服屋等の商店が所狭しと軒を並べていました。



▲角牟礼城跡(国指定史跡)

地区の現況と課題

当地区は玖珠町の中心部から北に車で5分ほどの位置にありかつては森藩1万4千石の城下町として形成されました。大分市と久留米市を結ぶ久大本線及び国道210号の開通等、交通体系の変化が起こるまでは玖珠町の政治及び商業の中心として栄えた地域です。住環境面からみると道路が狭い、公園・緑地が少ないなど問題が多かったが、これらについて地元関係者等と協議をしながら整備を行っています。



▲森地区の様子

事業取り組みと成果

従来の行政主導の景観整備から、地域住民を巻き込んだ協働のまちづくりが行われてきました。また修理・修景についてはガイドラインに従い一定の景観誘導がなされ良好な街なみ景観が形成されつつあります。



▲通路・水路美装化前後

地区の主なイベント・食

- 軒先市(4月～10月毎月5日開催)
- 森祇園大祭(7月)
- 森まちなみ文化祭(10月5, 6, 7日)
- 日本童話祭(5月5日)
- まちなみ美術館(10月)



▲森祇園大祭

地区のまちづくり協議会・地域の活動

森地区街なみ協議会が、地区内の軒先に美術品・工芸品等を展示するイベント(森まちなみ文化祭)の開催や環境美化・各種助言等の活動を実施しています。



▲軒先市の様子

これからの取り組み

道路美装化や質の高い修景事業を実施し、生活環境整備と景観誘導を継続していきます。また、「人づくり」「名産品」「食」等をキーワードにしたソフト事業を充実させていきます。

事業のお問い合わせ先

玖珠町 地域力創造課
TEL 0973-72-1151